

# 新指導要領 新科目 単位数(案)公表!

旺文社 教育情報センター 平成 28 年 8 月 3 日

平成 34 年度から年次進行で実施が予定されている次期学習指導要領。現在、中教審では改訂へ向けて審議が進められている。その中で今月 1 日、高校の新しい科目の一覧および標準単位数のイメージが公表された(第 19 回 教育課程企画特別部会)。

科目案そのものはすでに 4 月の審議で出されていたが、そこに若干の変更がなされ、加えて今回、初めて標準単位数が公表された。主要 6 教科が大幅改訂となるだけに、必修・選択科目の構成、その単位数には要注目だ。

※本稿の内容は、審議の途中段階における案であり、今後変更の可能性はある。

## 「高校 新指導要領」 科目・標準単位数(イメージ)

※第19回 中教審 教育課程企画特別部会 配付資料を基に作成。 ※下線が新設科目。

u003cdiv data-bbox="267 445 353 459" data-label="Caption">

〔改訂案〕

教科	科目	標準単位数	必修科目
国語	現代の国語(仮称)	2	○
	言語文化(仮称)	2	○
	論理国語(仮称)	4	
	文学国語(仮称)	4	
	国語表現(仮称)	4	
	古典探究(仮称)	4	
地理 歴史	地理総合(仮称)	2	○
	地理探究(仮称)	3	
	歴史総合(仮称)	2	○
	日本史探究(仮称)	3	
	世界史探究(仮称)	3	
公民	公共(仮称)	2	○
	倫理(仮称)	2	
	政治・経済(仮称)	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C(仮称)	2	
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目又は基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
外国語	英語コミュニケーションⅠ(仮称)	3	○2単位まで減可
	英語コミュニケーションⅡ(仮称)	4	
	英語コミュニケーションⅢ(仮称)	4	
	論理・表現Ⅰ(仮称)	2	
	論理・表現Ⅱ(仮称)	2	
	論理・表現Ⅲ(仮称)	2	
理数	理数探究基礎(仮称)	1	
	理数探究(仮称)	2~5	

〔現行〕

教科	科目	標準単位数	必修科目
国語	国語総合	4	○2単位まで減可
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理 歴史	世界史A	2	〓 ○
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
理科	科学と人間生活	2	〓 「科学と人間生活」を含む2科目又は基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
理科課題研究	1		
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	○2単位まで減可
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	コミュニケーション英語Ⅱ	4	
	コミュニケーション英語Ⅲ	4	
	英語表現Ⅰ	2	
	英語表現Ⅱ	4	
英語会話	2		

教科	科目	標準 単位数	必修科目
保健	体育	7~8	○
体育	保健	2	○
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ├───○ └───┘
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
書道Ⅱ	2		
書道Ⅲ	2		
家庭	家庭基礎(仮称)	2	┌ └───○
	家庭総合(仮称)	4	
情報	情報Ⅰ(仮称)	2	○
	情報Ⅱ(仮称)	2	
	総合的な探究の時間(仮称)	3~6	○2単位まで減可



教科	科目	標準 単位数	必修科目
保健	体育	7~8	○
体育	保健	2	○
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ├───○ └───┘
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
書道Ⅱ	2		
書道Ⅲ	2		
家庭	家庭基礎	2	┌ └───○
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	┌ └───○
	情報の科学	2	
	総合的な学習の時間	3~6	○2単位まで減可

## 各教科・科目のポイント

以下、科目構成、新科目の名称、内容はすべて現状案。

### ■■■国語■■■

全面改訂となった国語は、従来の読み取りが中心だった「現代文」と「古典」という切り分けから、「言語活動」と「言語文化の理解」に転換されたイメージだ。

現行の「現代文A・B」「古典A・B」という構成とは異なり、目的別に科目が細分化された。そのため、高校現場と大学入試ではどの科目を履修・出題するか悩ましくなる。

- ・「現代の国語」(2単位／必修)…実社会における言語活動に必要な国語の能力を育成。
- ・「言語文化」(2単位／必修)…上代から近現代までの言語文化への理解を深める。
- ・「論理国語」(4単位)…論理的な思考力・表現力を育成。
- ・「文学国語」(4単位)…文学作品を扱う。
- ・「国語表現」(4単位)…表現力や他者とのコミュニケーション能力を養う。
- ・「古典探究」(4単位)…古文・漢文を扱う。

### ■■■地理歴史■■■

同じく全面改訂。「歴史総合」と「地理総合」が必修となったことで、(近)現代に関しては地理、日本史、世界史の3領域に渡って履修することとなった。

現行のB科目(4単位)にあたる探究科目(3単位)は減単。特に歴史は高大接続(入試改革)の議論においても、膨大な量を暗記する科目から、理解を深め、探究する科目への転換が求められている。今回の減単はこうした議論が背景にあると思われる。

- ・「歴史総合」(2単位／必修)…日本史と世界史を融合し、近現代について学ぶ。
- ・「地理総合」(2単位／必修)…現代の地理的な諸課題を考察する。

## ■■■■公民■■■■

現行の「現代社会」を廃止し、「公共」を新設。「倫理」、「政治・経済」はこれを発展させた科目として位置づける。

- ・「公共」(2 単位／必修)…自立した主体として社会に参画していくことをめざし、社会における基本原理（民主主義、政治、経済、法など）や、現代的な諸課題（地域の活性化、社会保障、文化や宗教、国際平和、国際協力など）を学ぶ。

## ■■■■数学■■■■

「数学活用」を廃止し、「数学 C」が復活。標準単位数の構成も前回の指導要領に戻る形だ（前回「数学 C=2 単位、数学Ⅲ=3 単位」⇒現行「数学Ⅲ=5 単位」⇒次期「前回の指導要領と同じ」）。

- ・「数学 C」(2 単位)…「平面上の曲線と複素数平面」や「データの活用」などで構成。数学 B の統計的な内容を移行することも検討。

## ■■■■理科■■■■

「理科課題研究」が廃止となるのみで、そのほかの科目構成、履修の仕方に変更はない。

## ■■■■外国語■■■■

外国語（英語）も全面改訂となる。その目的とポイントは、「聞く」「話す」「読む」「書く」のバランスの取れた育成（特に「話す」「書く」）。新設の各科目もこれらの「総合型」の科目として構想されている。

なお、近年急速に広がった「4 技能」という考え方は、今後は「5 領域」として示す方針。これは従来の「話す」を「話す（やりとり：interaction）」と「話す（発表：production）」に細分化するためだ。

特に注目すべきは「話す（interaction）」が 1 つの単独領域として立てられたことで、学習者はもちろん、授業、教材、検定、入試の実施・開発に関わる側にとってもハードルがあがるだろう。

- ・「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」(Ⅰ=3 単位／必修、Ⅱ・Ⅲ=4 単位)…「聞く」「話す」「読む」「書く」を総合的に育成。
- ・「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(2 単位)…「話す」「書く」を中心に発信力を強化。スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど。

## ■■■■理数■■■■

「理数探究」は、数学と理科を横断して実験・観察などの探究を行っていく科目。次期指導要領全体の最大のポイント、アクティブ・ラーニングを具現化した科目として、審議の当初から「目玉科目」のイメージが強かった。

しかし選択科目となったことで、高校がどれだけカリキュラムに組み込んでくるか、大学がどれだけ入試科目として設定してくるかが大きな注目点となる。科目構成は当初案では「数理探究」1科目だったが、「理数探究基礎」と「理数探究」の2科目となった。

教科は、主に理数科などで履修されている「理数」に位置づけるが（当初案では数学と理科にまたがる扱い）、理数科に限らず、いずれの学科からも履修が可能だ。

- ・「理数探究基礎」(1単位)…実験や観察の手法、研究倫理などについて学ぶ。
  - ・「理数探究」(2～5単位)…自ら課題を設定し、探究の過程全体を実施する。
- ※「理数探究基礎」および「理数探究」の履修により、「総合的な探究の時間」（「総合的な学習の時間」から名称変更予定）の一部、または全部に替えることができる。

## 改訂へ向けた今後の流れ(予定)

### ●現在位置

昨年8月に中教審 教育課程企画特別部会から改訂に関する「論点整理」が出され、その後、学校段階別と教科別のワーキンググループ等（WG）において審議が進められた。

各WGは当初、昨年度末から年度開けに取りまとめる予定だったが、大幅にずれ込み、先月7月にすべてのWGが終了。現在はその報告を受け、教育課程企画特別部会が「審議のまとめ」公表へ向けて議論を行っている。本稿で取り上げた科目・単位数の案は、その中から出されたものだ。「審議のまとめ」は今月中に公表予定となっている。

### ●今後の流れ(予定)

【今月中】「審議のまとめ」を公表。

→【本年度中】答申

→【来年度】告示

→【平成34年度（2022年度）】新指導要領 実施（年次進行）

→【平成36年度（2024年度）】新指導要領を反映した入試スタート

※上記「36年度」は入試の実施年度（＝37年度入学者選抜）。



「探究世代」の到来を予感させるほど、新しい科目名には「探究」の文字が躍る。これはアクティブ・ラーニングへの転換に対する中教審の意気込みの表れだろう。

本稿では科目に注目したが、変わるのはいずれでもない。学校運営が変わり（カリキュラム・マネジメント／社会に開かれた教育課程）、授業が変わり（アクティブ・ラーニング）、評価の仕方も変わる（観点別評価）。改訂というより改革に近い。指導要領改訂よりも一足先に、大学入試も変わる。

学校現場は業務多忙が叫ばれている今、これほどまでの大きな変化に対応できるのだろうか。文科省には実現するための環境づくりを期待したい。